

CMP（製品含有化学物質・資源循環情報プラットフォーム）の開発状況 並びに RMP（リサイクルマネジメント情報プラットフォーム）構想

Chemical and Circular Management Platform
製品含有化学物質・資源循環情報プラットフォーム

2025年7月29日
CMPタスクフォース
共同リーダー 古田 清人

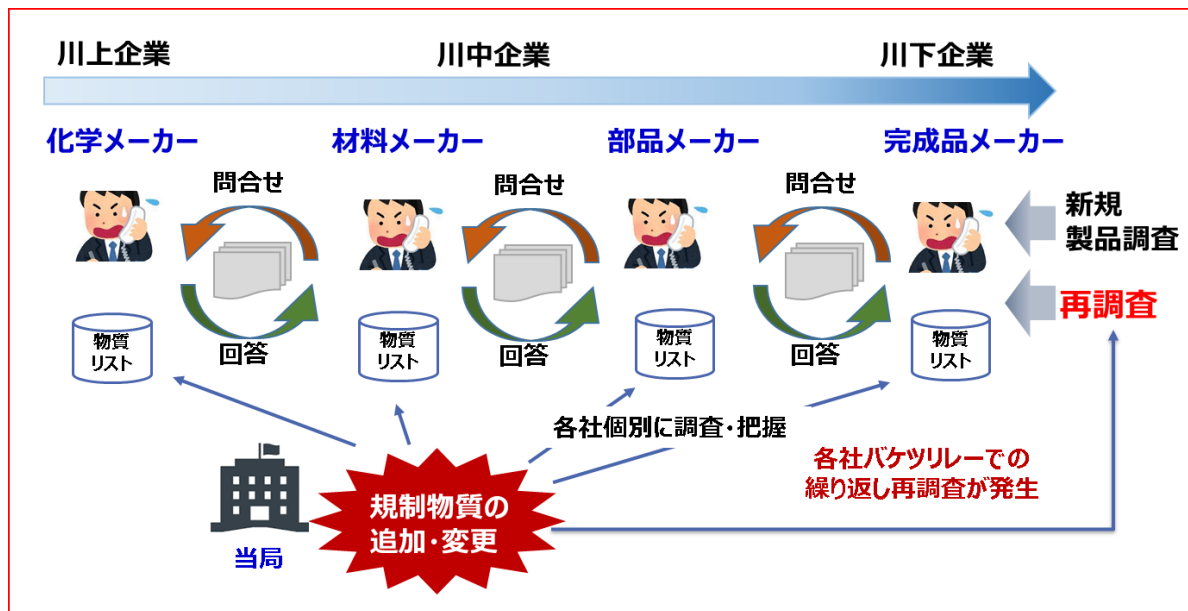
CMP（製品含有化学物質・資源循環情報プラットフォーム）の開発状況

CMPのコンセプト

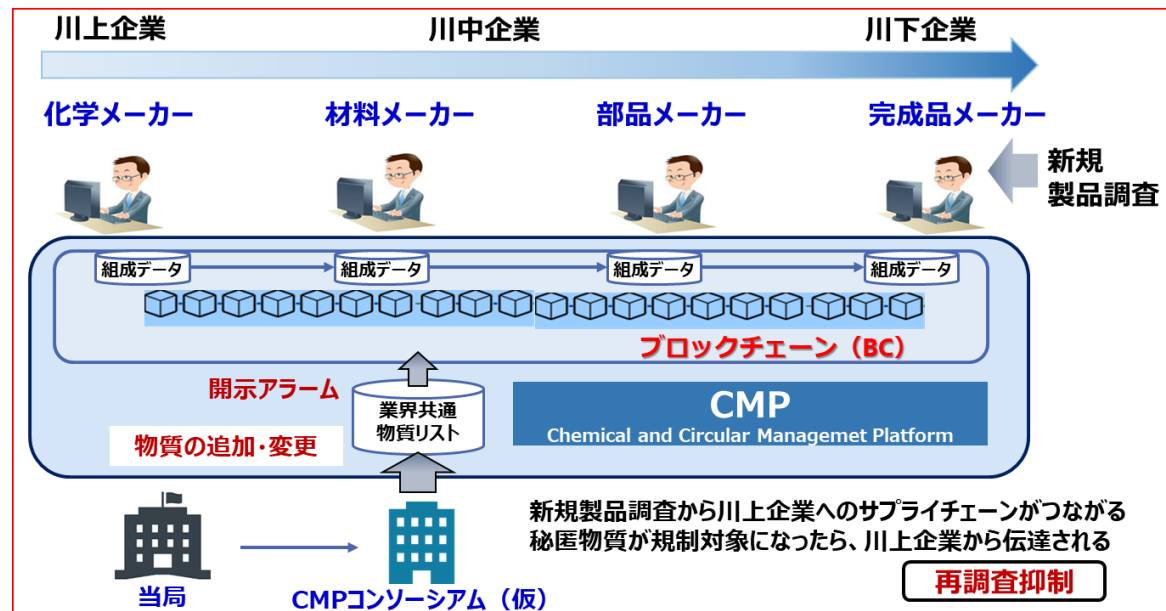
【得られる効果】

- ✓ 川上から川下へのシームレスな情報伝達
 - ✓ バケツリレー型情報伝達から、CMPコンソーシアムからサプライチェーン全体への一括トリガーへの変革
- ✓ 規制変更時に必要となる再調査の抑制
- ✓ 資源循環など新たな情報への展開

【現状の情報伝達】



【目指す情報伝達の姿】



CMPが目指す情報伝達の姿

化学物質情報伝達を進めることで製品デジタル情報で必要となる情報（資源循環情報を含む）まで管理が可能な製品環境に関する情報伝達基盤に成長させていく

1. 製品含有化学物質

- ✓ REACH規制など、年々厳しくなる化学物質規制に迅速に対応する（再調査効率化）
- ✓ 精度向上、業務効率の向上を図ると同時に秘匿物質の確実なコントロールを実現

2. 資源循環

- ✓ 欧州ESPR規制※1を睨み、製品デジタル情報を意識したバリューチェーンでの資源情報を共有する
- ✓ CMPが持つ、製品・部品・材料・化学物質のヒエラルキー情報に資源循環情報を加味することで効率的に情報共有を図る
- ✓ 部品リユース情報、リサイクル材情報（含有率、純度、ソースなど）の伝達を実現

3. グローバル連携

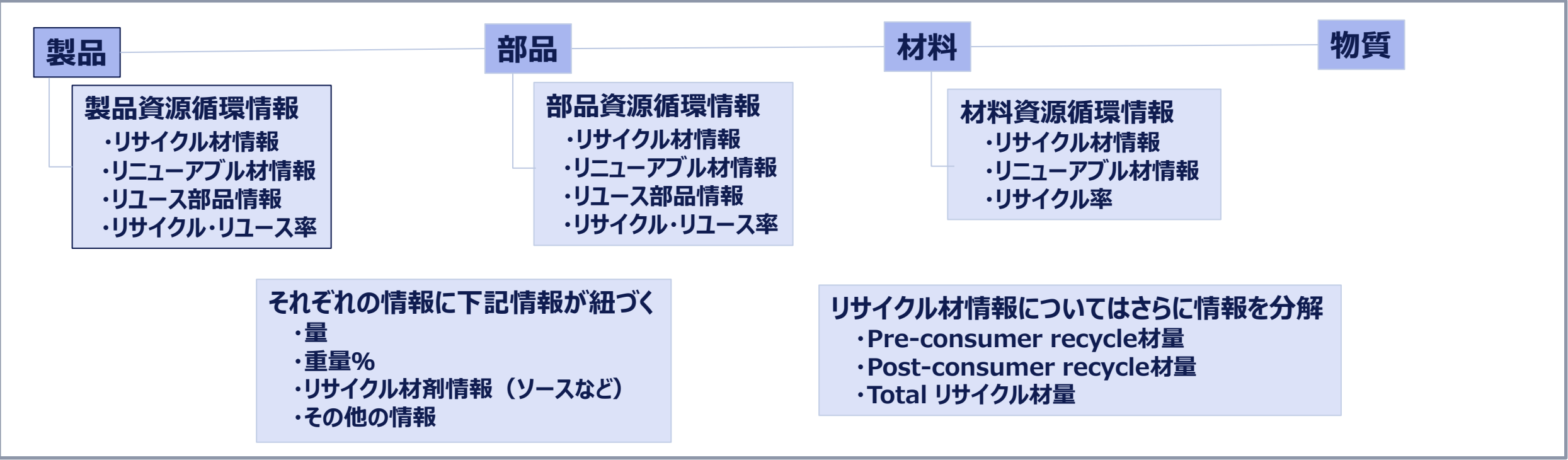
- ✓ 現在策定が進むIEC/ISO 82474 (Material Declaration) ※2規格の内容（資源循環情報を含む）を盛り込むことで、グローバル連携を可能とする
- ✓ グローバルに展開されている製品含有化学物質情報（既存プラットフォームなど）との連携を目指す

（※1）様々な製品に対し、再利用や修理可能性、エネルギー効率等製品仕様における持続可能性の要件の枠組みを設定する規制

（※2）製品含有化学物質の情報伝達に関する国際標準（グローバルに展開されるサプライチェーンに対して標準となる情報伝達項目、情報伝達様式定めている） 2025年5月には規格発行。

資源循環（リサイクル情報）への対応

CMPのデータ構造と資源循環情報の関係



それぞれの製品にどれだけ循環資源が採用されているかを把握可能
材料情報を提供することで、次なる資源循環情報としてリサイクラー等が使用可能となる

CMPタスクフォースメンバーリスト

注) 複数チーム・WGに参加のメンバー企業は
代表または川上側チーム優先で記載しています

CMPタスクフォース活動を約70の企業、団体で推進中

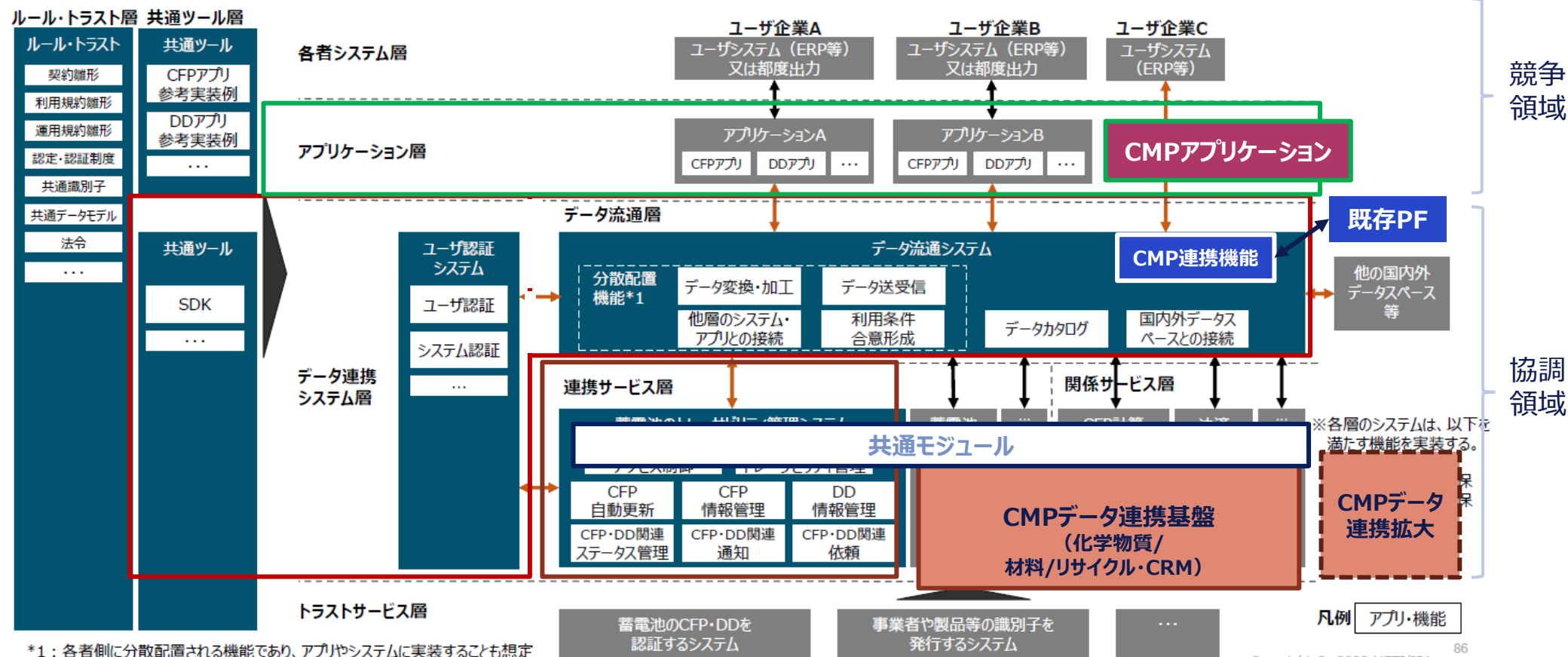
※2025年7月現在

化学品チーム	川中チーム	電機電子チーム	自動車チーム
1 旭化成株式会社	1 オムロン株式会社	1 沖電気工業株式会社	1 株式会社アイシン
2 株式会社オリジン	2 京セラ株式会社	2 キヤノン株式会社	2 愛知製鋼株式会社
3 互応化学工業株式会社	3 住友電気工業株式会社	3 一般社団法人 産業環境管理協会	3 株式会社クボタ
4 サカティンクス株式会社	4 太陽誘電株式会社	4 セイコーエプソン株式会社	4 株式会社ジェイテクト
5 三洋化成工業株式会社	5 豊田合成株式会社	5 ソニー株式会社	5 ジャトコ株式会社
6 住友化学株式会社	6 株式会社豊田自動織機	6 株式会社東芝	6 株式会社SUBARU
7 テクノUMG株式会社	7 トヨタ紡織株式会社	7 東京エレクトロン株式会社	7 ダイハツ工業株式会社
8 DIC株式会社	8 富士フイルム株式会社	8 日本電気株式会社	8 株式会社デンソー
9 豊通ケミプラス株式会社	9 株式会社村田製作所	9 パナソニックオペレーショナルエクセレンス株式会社	9 トヨタ自動車株式会社
10 長瀬産業株式会社	10 YKK株式会社	10 ブラザー工業株式会社	10 日産自動車株式会社
11 一般社団法人 日本化学工業協会	システム、普及検討、物質リスト	11 三菱電機株式会社	11 パナソニックオートモーティブシステムズ株式会社
12 日本化学品輸出入協会	1 株式会社アイリーシステム	12 株式会社リコー	12 本田技研工業株式会社
13 日本ケミカルデータベース株式会社	2 株式会社ゼロボード	13 レーザーテック株式会社	13 マツダ株式会社
14 日本パーカライジング株式会社	3 Sotas株式会社		14 三菱自動車工業株式会社
15 日本ペイントコーポレートソリューションズ株式会社	4 株式会社dotD		15 ヤマハ発動機株式会社
16 藤倉化成株式会社	5 UEL株式会社	オブザーバー	
17 丸紅株式会社	6 株式会社NTTデータ	1 経済産業省	
18 三井化学株式会社	7 東芝デジタルソリューションズ株式会社	2 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)	
19 三菱ケミカル株式会社	8 豊田通商株式会社	3 独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)	
20 株式会社三菱ケミカルリサーチ	9 みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社	4 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)	
	10 富士通株式会社		

データ連携基盤のシステムアーキテクチャ

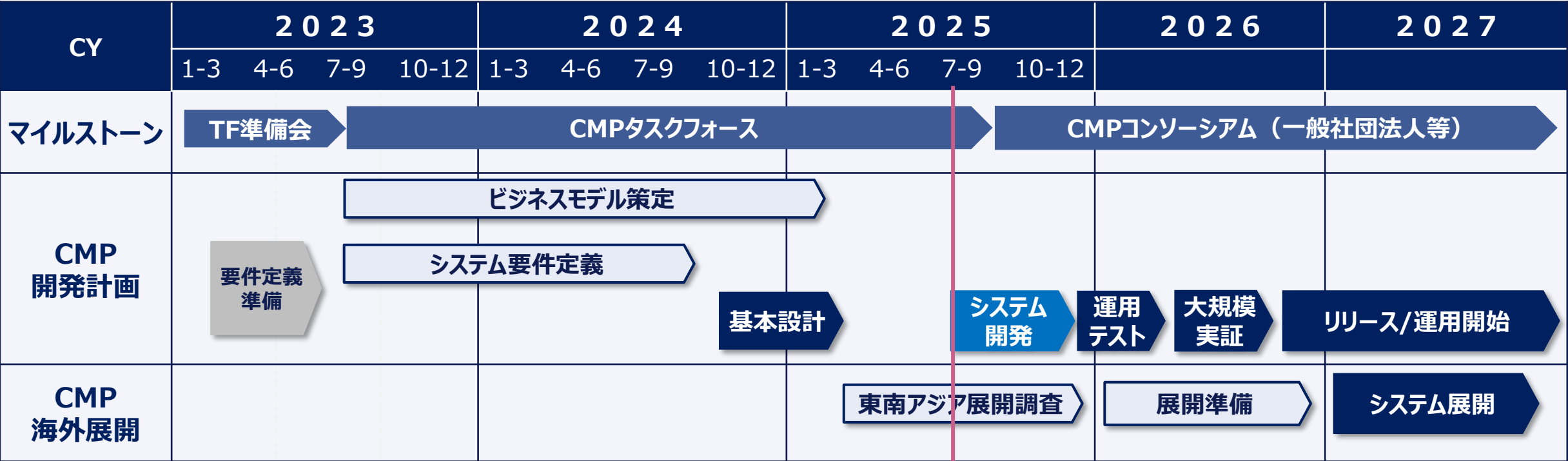


各者システムやアプリケーションが利用するサプライチェーンデータ連携基盤は、ルール・トラスト層、共通ツール層、データ連携システム層、トラストサービス層に分けて、それぞれを構成するシステムが疎結合するアーキテクチャとする。先行的に青い箇所の具体化を進めている。



CMP構築に向けた想定スケジュール

2025年7月現在

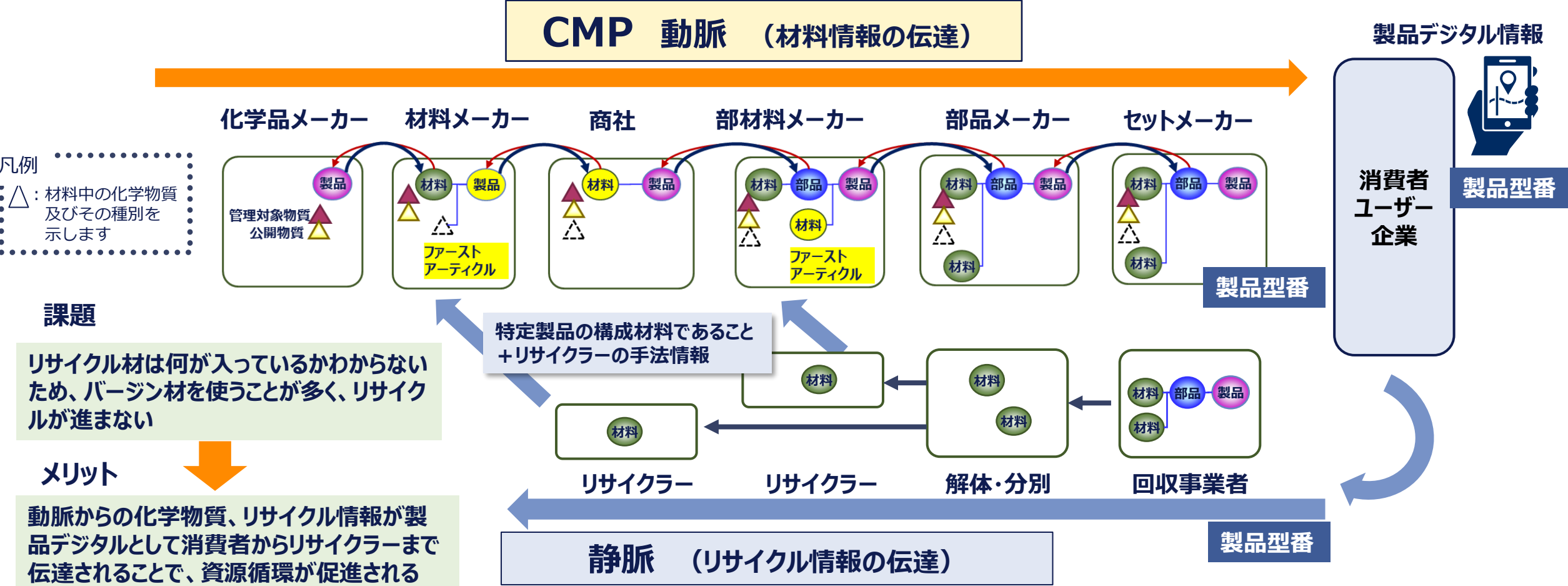


- ・2024年度/2025年度：システム基本設計→システム開発→運用テスト→大規模実証を計画、2025年8月からシステム開発開始予定
- ・電機電子、自動車業界連携から開始、順次対象産業界を拡大、「業界横断型」を目指す
- ・多くのサプライヤーが存在する東南アジアへのシステム展開に向けた調査を2025年度より進めていく

RMP（リサイクルマネジメント情報プラットフォーム）構想

資源循環プラットフォームへの拡大

欧州が循環型社会に向けた規制（ESPR）を発行。今後、デジタルプロダクトパスポート（DPP:製品の資源情報、リサイクル情報）の対応が求められる
CMPを動脈基幹システムとし、静脈側に連携するシステムを確立



CMP（動脈） 情報と資源循環（静脈） 情報の活用イメージ（案）

CMP（動脈）

化学品メーカー 材料メーカー 商社 部品材料メーカー 部品メーカー セットメーカー

動脈側の要求

- ・ リユース部品、リサイクル材を使用する段階における遵法確保
- ・ 安定供給（量、質）の可能性（ソースの確認）



静脈側の対応

- ・ リユース部品、リサイクル材を使用する段階における遵法判断情報
- ・ 安定供給（量、質）のためのソースの確認

CMP情報から、どの製品のどの部品、材料を選別するかを判断することが可能

動脈側の要求に適した物、情報が
静脈側から提供
動静脈連携チームを構築し議論

リサイクラー 解体・分別 回収事業者

資源循環（静脈）

製品デジタル情報



消費者
ユーザー
企業

製品型番

製品を上市した段階
だけではなく継続的
に化学物質情報を
アップデートするこ
とが必要



CMPが機能させることで可能

RMP（リサイクルマネジメント情報プラットフォーム）システム化構想検討（案）

	FY2025											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
マイルストーン	▲SWG RMP発足		▲SWG メンバー追加								▲システム化構想書公開	
システム化構想検討	現状分析 WGメンバー取り組み共有 個別企業へヒアリング			ユースケース 素材 選定	業務フロー検討 ビジネスモデル検討	データモデル検討 アーキテクチャー検討	システム化構想書					

＜前半の検討テーマ＞

システム化対象のユースケース・素材を選定する

- ・各イニシャチブの目的、活動の共有
- ・CMPデータの活用方法検討
- ・ユースケース・素材候補の確認
- ・RMPを構成する企業へのヒアリング（課題・ニーズ）
- ・当該企業へのSWG参加要請
- ・RMPの価値、目的の明確化

- ・1stユースケース・素材の選定（3つ以内）

＜後半の検討テーマ＞

対象ユースケースについて、システム化構想書を作成する

- ・当該ユースケース企業の追加参加、課題共有
- ・ユースケースの業務フロー、データモデルを検討
- ・ユースケースのビジネスモデルを検討
- ・ウラノス・エコシステムでのアーキテクチャを検討
- ・システム構築の意義、メリットの明確化
- ・次フェーズ以降の計画立案

- ・システム化構想書としてまとめる

ご清聴ありがとうございました

CMPへのお問合せは下記までお願いいたします。

<https://forms.office.com/r/LGcvB5BNJR>

